

★ 授業のヒント

テーマ 教室を楽しくする工夫 — 指名やグループ作り —

目的 もくてき
教室に変化を与え、学習者が授業を楽しめる 要素を増やすこと
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級～上級
クラスの人数 にんずう
人数によって適切な方法を選ぶ

◆ 指名の方法

みなさんは、学習者を指名する(あてる)とき、どのようにして決めていますか。手をあげた学習者をさすという方法がありますが、教師が主導で、学習者を指名する方法もありますね。指名を受ける方の学習者は、自分があたるかどうか、どきどきしながら待っているかもしれません。

2008年度海外日本語教師長期研修のあるクラスの皆さんに、指名方法について聞いたところ、次のような方法がありました。

席の順番、リストを見てアトラダムに、ぼーっとしている人、おしゃべりしている人、宿題を忘れた人、わかっていないかもしれない人、……など

その他、あてられた学習者が、次の学習者を指名するというアイデアも出ました。

名前や番号を言って指名したり、席の順番であてたりする方法は、手間や時間がかからないというメリットがありますが、いつも同じ方法ではなく、いろいろな方法をとってみることは、授業に変化を与えるきっかけとなるでしょう。日本語を使って指名する場合は、学習者が自分にあたるかどうか注目しているので、聞くことに集中できている状態とも言えます。そこで、学習者がスリルと楽しさを味わえると同時に、総合的な日本語や日本文化の学習になるようなアイデアを次に紹介します。

1) 教師があてる人を決めている場合

① その学習者の特徴(体の特徴、洋服、趣味、出身地など)を説明する文を聞かせる

例) めがねをかけていて、水色、黄色、黒、緑色の線の入ったシャツをきている人、(まだ特定できなかつたら、

学習が進んでクラスの雰囲気慣れてくると、毎回の授業の中のちょっとした変化が楽しさにつながる場合があります。今回は、授業で行う「指名」と「ペアやグループ作り」の工夫を紹介します。

どんどんヒントを加えていきます)……スポーツが大好きで、昼休みにバレーボールをやっている男性

② 名前や学生番号を説明文に利用する

例) 1年の最後の月の数字(12)に5を足して、クラスの人数(15)をひいた番号の人(2番の人)

2) 教師が誰にあてるか決めない偶然による指名

① さいころを使って出た目の数の番号の人

さいころ2個で12人、5個で30人まで指名ができます。みんなから見える大きいさいころを使ったり、学習者にさいころをふってもらったりすると楽しさが増すでしょう。

② 人を選ぶときに歌う「わらべ歌」注) で決める

次の歌を歌いながら(下線の部分を1拍のリズムで歌う)、座席の順番に1人ずつ指でさしていき、歌が終わった人のところで、さされた人があたる。(28番目の人があたる例)

歌: だ れ に し よ う か な、て ん
の か み さ ま の い う と お り、
て っ ぽ う う っ て ど ん ど ん ど ん
(誰にしようかな、天の神様の言う通り、鉄砲撃ってどんどん)

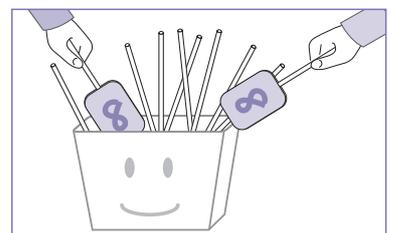
注) わらべ歌: 昔から伝えられている子供が遊ぶときに歌う、リズムのよい歌。歌の歌詞は、地方や年代によって違いがあることが多い。

◆ ペア作りの方法

今度はペアを作る方法を考えてみましょう。

まず、割りばしやストロー、つまようじなど、「くじ」になるものを用意します。同じものがたくさん準備できるものだったら何でもいいです。そして、赤2つ、青2つ、緑2つなど同じ色のもの、あるいは同じ数字や同じ文字、同じことばを書いたものなどを2つずつ作っておきます。

教室では、それを1つずつ学習者に選ばせます。自分と同じものを引いた人がペアの相手になります。



ペア作りをすることが主目的ですが、このようにちょっとした遊び心あそびごころを加えるだけで、学習者が興味を持って活動に参加するきっかけになります。

人数の多いクラスでは、全員でくじ引きするのは一苦労ひとくらくですし、時間がかかって大変でしょう。でも、もしもペア練習をいつも何となく隣の人同士ひとどうしでさせていた場合には、たとえば、前後の人同士をペアにしてみたり、いつもとはちがう席せきに座らせたりしてみると、今までとはちょっとちがった変化へんかが生まれるでしょう。

◆グループ作りの方法

次に、学習者を分けていくつかのグループを作るための方法を紹介しましょう。

2つのグループを作りたいときに、日本の子どもたちは「グーパー」という方法を取ることがあります。

皆さん、ジャンケンじゃんけんは知っていますね。ジャンケンの中でグーご（石）とパーぱー（紙）だけを使います。

グーパーのやり方

- ① 全員が向かい合う。
- ② 片手をグーの形にして前に構えながら、大きな声で「グー、パー、ジャン」と言う。
- ③ 言い終わると同時に、構えた手をさらに前に出す。このとき、出す手はグーパーのどちらかだけ。
- ④ 半分の人数に分かれるまで②と③を繰り返す。

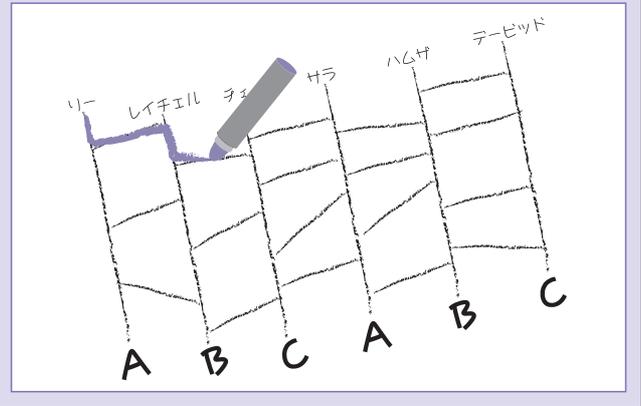
クラスの人数が多いときは、隣りの人同士でグーパーをして、グー組とパー組に分かれるようにしてもいいでしょう。では今度は、グループを3つ、4つ、5つ…と作りたいときの方法を見ます。

日本の子どもたちが何かを決めるときに使う方法に「あみだくじ」というものがあります。

あみだくじのやり方

- ① 紙や黒板に、クラスの人数分だけ縦にまっすぐ線を引く。
- ② 線の一番下に、グループの名前を書く。たとえば、3つのグループ（A、B、C）を作りたいときには、右上の絵のように、書く。縦の線の上がスタートで、下がゴールになる。
- ③ 縦に並んだ線と線の間、横に線を書き加える。これによって、誰がどのグループになるかが決まるので、横の線は何本でも好きなだけ、書き加える。
- ④ 全員がスタートの線（縦の線の上）をどれか1つ選ぶ。2つ以上選んではいけない。

- ⑤ 1人1人順番に、スタートから線をたどって、ゴールに向かって進む。途中で横の線があったら、必ず曲がらなければならない。
- ⑥ 全員が終わったら、ゴールに書いてあるグループの名前（記号）にしたがって分かれる。



この他にも、次のような方法もあります。

はじめに全部の机かイスの下に、A、B、C、D…など分けたい数だけのグループ名を書いた紙を1枚1枚貼っておきます。授業中に学習者に自分の机の下かイスの下にある紙を見るように指示します。学習者はその紙に書かれているグループのとおりに分かれるというやり方です。準備は、学習者が教室に来る前しておくようにしましょう。

また、ペア作りで紹介したくじ引きを応用して、たとえば5人で1つのグループを作りたいときに、くじの1つ1つにひらがな1文字を書いておいて、「あ」「い」「う」「え」「お」を選んだ5人が1つのグループ、か行を選んだ5人が別のグループという方法もあります。

（2008年度長期研修生フィリピンのMさんのアイデア）

指名やグループ作りを工夫すると、手間や時間がかかるというデメリットがあります。でも、授業の時間全体を日本語で楽しくコミュニケーションする時間と考えると、指名するときやペア/グループを作るときも、学習者が偶然の要素やゲーム的な要素を楽しんだり、総合的に日本語や日本文化を学んだりすることができるチャンスと言えるでしょう。また、ペアやグループが変わることによって、インフォメーションギャップができたり、新しい相手について知りたいという動機づけになったりして、学習者にいい意味での緊張感が生まれ、その後のクラス活動にもよい影響を与えることも期待できます。

指名したりペア/グループ作りをしたりするときに、一工夫してみてもいいかがですか。

このコーナーの担当者：有馬淳一（日本語試験センター研究員）、木田真理（日本語国際センター専任講師）

読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。